

# 『ワードパワー』活用ガイド

監修：村田 年 執筆：山田 茂

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 監修のことば                               | 2  |
| 1 はじめに                               | 3  |
| 2 英英辞典を使う意義 — 「willing =喜んで…する」ではない？ | 3  |
| 3 『ワードパワー（第4版）』の特徴                   | 4  |
| 4 『ワードパワー（第4版）』の見方と使い方               | 5  |
| 5 略語・ラベル                             | 11 |
| 6 『ワードパワー（第4版）』を使ってみよう               | 11 |
| 7 4つのアドバイス                           | 21 |
| 8 おわりに                               | 21 |

## 監修：村田 年（むらた みのる）

千葉大学名誉教授

アジア辞書学会会長、大学英語教育学会理事、日本英語表現学会理事、JACET 英語辞書研究会代表などを歴任し、現在日英言語文化学会副会長。専門は英語辞書学・日英語の比較。

編著書に『ロイヤル英和辞典』（編集委員・旺文社）、『ニューブロード英和辞典』（編集委員・ベネッセコーポレーション）、『基本英単語の意味』（三修社）、『JACET 8000（大学英語教育学会基本語リスト）』（編集委員長）、『日英の言語・文化・教育』（編集委員長・三修社）、English Lexicography in Japan（編集委員長・大修館書店）などがある。

## 執筆：山田 茂（やまだ しげる）

早稲田大学教授

日本英語表現学会副会長、日本実用英語学会理事、アジア辞書学会理事、JACET 英語辞書研究会副代表。

専門は英語学・辞書学。

主な編著書：『新英和大辞典』（第6版、2002年、研究社、執筆）、『ルミナス和英辞典』（第2版、2005年、研究社、編集委員）『ライトハウス和英辞典』（第5版、2008年、研究社、編集委員）

主な論文：“EFL dictionary evolution: Innovations and drawbacks.” *English Learners' Dictionaries at the DSNA* (2010, K Dictionaries)

2013年3月21日作成

制作：株式会社 旺文社 編集協力・デザイン・組版：株式会社 シー・レックス

編集：嶋田 諭示

©Obunsha Co., Ltd. 2013 （許可なしに転載、複製することを禁じます）

The authors and the publisher wish to thank Oxford University Press for their kind permission to use examples from copyright material.  
*Oxford Wordpower Dictionary* ©2012 Oxford University Press, Oxford, UK All rights reserved.

## 辞書の併用で豊かな英語文化の世界へ

英語を学ぶ人にはぜひ辞書の併用を薦めたい。本を読むときは、まずは英和辞典を引き、より詳しくニュアンスをつかみたい、2つの同意語の違いを知りたいと思ったときは英英辞典を引いてみる。思わぬ発見や生きのいい例文に出会ったりする。

初めは英英辞典を引くことは少なくてもよい。だんだんと英英に頼る比率を上げていく。基本語の意味をじっくり読み、解説や例文を読んでいくうちに自然と英語が身につく、学習が深まってくる。英英辞典を引かなければと考えると、億劫になり学習がきつくなる。初めはある程度英和で調べ、だいたいの意味がわかってから、英英に当たるのもいいだろう。

最近では電子辞書を持ち歩き、家でも全く紙の辞書を使わない人が多い。これも考え直したい。確かに電子辞書は便利で、1つで英和も和英も、国語辞典も引ける。ちょっとした調べものにはうってつけで、使う回数も増えよう。しかしながら、たまには紙の辞書でじっくり読みたい。訳語と用例、語法解説、囲み記事などを読み、まわりの語も眺める。これがまた勉強になる。さらに英英辞典が加わってくれば、学習は広く深くなり、立体的になる。英語がわかったとの実感も深くなるだろう。

この『ワードパワー』(Oxford Wordpower Dictionary)の初版が刊行された1993年当時の外国人学習者用の英英辞典の状況は、『オックスフォード現代英英辞典』(Oxford Advanced Learner's Dictionary)を中心に中級～上級者向けの辞書がますます充実し、発展していた。一方、初級～中級者向けの学習辞書も何種かあったが、上級辞書の切り詰め、見出し語のカット、用例のカットなどにより、表面上は簡略化されてやさしそうだが、かえって理解しにくい、中途半端な面があった。

上記の反省に立って、初めて英英辞典を手にする学習者にとり、真の意味でユーザーフレンドリーな辞書をとの意図で企画されたのが本書『ワードパワー』であった。この企画は教師と生徒に好意的に迎えられ、『ワードパワー』は世界の隅々にまで販路を伸ばした。しかしながら、ユーザーフレンドリーな改革は一朝一夕には成らず、第2版(2000年)で進展し、第3版(2006年)になって初めて真の意味で使い手にやさしい辞書になり、今回の第4版で、情報量の大きな、作文に強い、語彙の学習に最適な辞書に仕上がったと言ってよいであろう。

今度の改訂の重点の1つは、ライティング能力を伸ばすことで、新設の Wordpower Writing Tutor によって各種エッセイやレポートの書き方、手紙や履歴書、メールの書き方が特集されている。さらに、付属の CD-ROM にライティングサポート機能「Oxford iWriter」が搭載されて、これを使いこなすことによって、相当自由に英文が作れるようになる。また、膨大な学習者の作文例、誤用例の分析からの「語法文法解説」(HELP)の充実により、例えば、explain me the problem は explain the problem to me と直さなければならないことなど、学習者が間違えやすい点に解説がついている。

また、大きなコーパス(電算化された言語資料)分析結果によるコロケーション(語と語との相性のよい連結)が豊富に示されているので、これを覚えて使うことを薦めたい。常に単語1つではなくて、連語・チャンク(かたまり)の形でとらえて、覚えるようにしたい。

上で薦めた辞書の併用だが、さらにこれを進めて、「辞書のはしご」をお薦めしたい。気になることばが出てきたら、英和、和英、英英のいろいろな辞書をはしごして、何度でも引いてみることだ。必ずや広い、豊かな英語文化の世界を実感できるはずである。

あなたの愛用辞書にこの『ワードパワー (第4版)』をぜひ加えていただきたい。

(村田 年)

## 1 はじめに

『オックスフォード・ワードパワー英英辞典』（以下『ワードパワー』）は、中級者向けの外国人のための英英辞典（学習英英辞典）だ。私事で恐縮だが、この辞書は筆者にとって思い出深い。その初版（1993）を、勤務先の大学の英語の授業で「教科書」として使ったからだ。なぜ「辞書」を「教科書」に選んだのか？学習英英辞典は情報の宝庫で、中級者向けの『ワードパワー』は、特にわかりやすく、情報が厳選されている。最初に使う英英辞典として、そして読む辞書として学生に最適だと思ったからだ。授業では基本語の項目や語法欄を読んだり、実際に辞書を引く練習をした。同辞書はその後、好評のうちに版を重ね、2012年にその第4版が出版された。以下、最新版の特徴、活用法を具体的に見ていく。練習問題も用意したので、実際に辞書を開き取り組んでほしい。まずは「なぜ英英辞典か？」ということに触れる。

## 2 英英辞典を使う意義 — 「willing = 喜んで…する」ではない？

### 2つの英英辞典

英語の辞書はどのような目的で使われるか？「意味を調べるため」という答えが最も多いだろう。しかし、意味を調べるために、なぜあえて英英辞典を使うのか？これに対しては、全く理解できない、英和辞典でよいではないか、説明に知らない単語が出てきてまたそれを調べなければならないので面倒、そもそも英英辞典は敷居が高い、という意見もあるだろう。実は英英辞典には2種類ある。ネイティブ・スピーカー向け（日本人のための「国語辞典」に当たる）と外国人学習者向けのものだ。一般の学習者は、初めて使う英英辞典として後者の外国人向けの英英辞典（学習英英辞典）を使うべきだ。『ワードパワー』もこれに属する。すべてが外国語で書かれている英英辞典は、確かに敷居は低くはない。しかし、手に取ってみると、意外に使えるかもしれないと思いきや学習者が多いのではないか？学習英英辞典には、対象である外国人学習者のためにさまざまな配慮がなされている。

### 学習英英辞典の特徴

学習英英辞典の主な特徴は以下の通りである：

- ・ 見出し語、語義が厳選され、主にことばの情報を扱う
- ・ 基本語の記述が充実している
- ・ IPA による発音表記
- ・ 名詞の可算・不可算や文型の表示
- ・ 定義語彙による、わかりやすい定義
- ・ 用例、挿絵が豊富

（小池生夫他編. 2003. 『応用言語学辞典』研究社. p.665）

### ● 英和辞典と英英辞典

「英和辞典でよいではないか？」という意見があるが、英和辞典は受信（主に読解）のための二言語辞書としては世界のトップクラスにあるので、全否定はできない。しかし、英和辞典と英英辞典の最大の違いは、前者が「訳語」を与えているのに対して後者は「定義」を与えている点だ。日本語と英語は全く体系の異なる言語で、一部の専門用語を除いては、単語の意味において一対一の対応関係はない。つまり、英和辞典の英語の見出し語とそれに対する日本語の訳語との間にはギャップが存在するということだ。英和辞典では複数の訳語（日本

語の近似値)を与え、その「最大公約数」を示すことによって見出し語(英語)の意味範囲を映し出そうとしている。使用者が英英辞典の定義、用例に当たり、各自の文脈に照らし合わせ、フレキシブルに解釈(訳)を導き出すことが理想であろう。英語の定義を読むことにより英語に触れる機会が増すばかりでなく、ある語句と他の語句との関連を学びながら学習できる利点もある。とは言え、動植物名など英語の定義を読んでもピンとこない場合や、ずばり訳語が欲しいときもあるので、英英と英和その他の辞書は使い分けることが肝心である。

「willing =喜んで…する」とインプットしていないだろうか?『ワードパワー(第4版)』は右のような定義を与えている。「喜んで…する」という積極的な意味だけではないことがわかり、興味深い。

**willing** /'wɪlɪŋ/ *adj* **1** [not before a noun] **willing (to do sth)** **happy to do sth; having no reason for not doing sth:** Are you willing to help us? ♦ She's **perfectly willing** to lend me her car. ♦ I'm not willing to take any risks. **2** ready or pleased to help and not needing to be persuaded; enthusiastic: a willing helper/volunteer **OPP** for both meanings **unwilling** ▶ **willingly** *adv* ▶ **willingness** *noun* [U, sing]

…できて幸せな; …しない理由はない

### 3 『ワードパワー(第4版)』の特徴

#### 最初の学習英英辞典は日本で生まれた!

学習英英辞典は全辞書ジャンルの中で最もレベルが高い辞書だ。なぜか?英語が世界の共通語としてますます重要性を増すにつれ——つまり全世界が市場——主に英国の出版社による熾烈なシェア争いが展開されてきたからだ。使用者調査の成果の反映、コーパス(コンピュータで分析可能な言語資料)の編集への活用など、(応用)言語学の研究成果もいち早く取り入れてきた。最初の本格的な学習英英辞典は、1942年になんと日本で出版された。英国より招聘された英語教師 A. S. Hornby 他によって編集された *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* (開拓社) がそれだ。後にオックスフォード大学出版局に著作権が買われ、*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* (『オックスフォード現代英英辞典』)として、今日まで命脈を保ち、3,500万部以上売れているとのことだ(第8版(2010)裏表紙)。『ワードパワー』は、この辞書の流れを汲む。

#### 主な特徴

第4版の主な特徴は以下の通りである。中級学習者が自信を持って英語を書き、話せるための語彙力強化、そのためのきめ細かな配慮は初版から受け継がれている:

- ・ **Oxford 3000™** (基本3000語)によるわかりやすい定義
- ・ **Short cut** (意味への近道)は多義語の検索を容易にする
- ・ **Topic** (話題欄)は使用者が自信を持って会話するための表現と情報を与える
- ・ 新規の **Exam tips** (試験対策欄)は試験の準備に役立つ情報を与える
- ・ **Other words for** (類義語欄)は同義語の解説をし、使用者の語彙の彩を豊かにする
- ・ **Colour Pages** は16ページにわたるテーマ別カラー挿絵集
- ・ 16ページにわたる **Wordpower Writing Tutor** と **Oxford iWriter on CD-ROM** は中級学習者の書く力を高める

収録されている情報の量は以下の通りである:

- ・ 見出し語、成句、語義を合わせて45,000以上(500の語句、語義を追加)
- ・ コロケーション14,400以上
- ・ 文法パターン3,200以上
- ・ コーパス準拠の用例36,000以上
- ・ 挿絵250以上

### 全体の構成

本辞書は前付け、辞書本体、スタディー・セクションから成る。前付けには「使い方の手引き」(iv-v)と発音記号の凡例(vi)がある。スタディー・セクションは充実した内容で、以下の5部から成る。最初の2つはカラーで印刷されている：

- ・ **ワードパワー・ライティング・チューター** (WT1-16)：具体例に基づいた、各種エッセイやレポートの書き方の手引き。書く上での注意や有用表現も与える。手紙や履歴書、メールの書き方も含む。
- ・ **カラー・ページ** (P1-16)：服装、動植物他のテーマ別挿絵集(写真も含む)。
- ・ **リファレンス・セクション** (R1-41)：文法とその他に分かれる参照するためのセクション(もちろん通読してもよい)。後者は接辞、数量表現、英語と米語の違いなどを含む。
- ・ **ワードパワー・ワークアウト** (R42-59)：『ワードパワー』引きながら使い方を学ぶ練習問題集。
- ・ **挿絵一覧** (R60-61)と**コラム一覧** (R62-64)：これらを見て、関連のある挿絵や記事を参照したり、興味のあるものを拾い読みすることも有意義だ。

### 項目の構成

#### 見出し語

各項目の先頭に太字で示されており、これらがアルファベット順に配列されている。アメリカ英語など、バリエーションが与えられている場合もある。AmEはアメリカ英語(American English)を示す。

#### 見出し語の配列

ある単語が複数の品詞で用いられる場合、品詞ごとに別見出しが立てられる場合がある。また、一方が他方にまとめられる(追い込まれる)場合もある。

派生語は、使用頻度が高いものは独立見出しになっているが、低いものは追い込まれている。

**catalogue** (AmE **catalog**) /'kætələg/ noun [C]  
**1** a list of all the things that you can buy, see, etc. somewhere **2** a series, especially of bad things: a catalogue of disasters/errors/injuries ▶ **catalogue** (AmE **catalog**) verb [T]: She started to catalogue all the new library books.

**swot<sup>1</sup>** /swɒt/ noun [C] (informal) a person who studies too hard  
**swot<sup>2</sup>** /swɒt/ verb [I,T] (informal) (swotting; swotted) **swot (up) (for/on sth)**; **swot sth up** to study sth very hard, especially to prepare for an exam: She's swotting for her final exams.

**telephone** /'telɪfəʊn/ (also informal **phone**)  
 noun **1** [U] an electrical system for talking to sb in another place by speaking into a special piece of equipment: Can I contact you **by telephone**? ♦ **to make a telephone call** ♦ **What's your telephone number?** **2** [C] the piece of equipment that you use when you talk to sb by telephone: Could I use your telephone? ♦ **Where's the nearest public telephone?**

**HELP** It is more common to use **phone** rather than **telephone**, especially when you are speaking.

**IDM on the phone/telephone** ⇄ **phone** ⇄ note at **mobile phone**

▶ **telephone (also phone) verb** [I,T]: He telephoned to say he'd be late.

**hopeful** /'həʊpfl/ adj **1 hopeful (about sth)**; **hopeful that ...** believing that sth that you want will happen: He's very **hopeful** about the success of the business. ♦ **The ministers seem hopeful that an agreement will be reached.** **SYN optimistic** **2** making you think that sth good will happen: a **hopeful sign** **SYN promising**

**hopefully** /'həʊpfəli/ adv **1 (informal)** used to say what you hope will happen: **Hopefully**, we'll be finished by 6 o'clock. **2** showing hope: She smiled **hopefully** at me, waiting for my answer.

**rare** /reə(r)/ adj (**rarer**; **rarest**) **1 rare (for sb/sth to do sth)**; **rare (to do sth)** not done, seen, happening, etc. very often: a **rare bird/flower/plant** **2** (used about meat) not cooked for very long so that the inside is still red: a **rare steak** ⇄ look at **medium, well done** ▶ **rarely** adv: Human beings **rarely** live to be over 100 years old.

複合語も見出し語になっている場合があるが、一語で綴られていても、ハイフンでつながれていても、分かち書きにされていてもアルファベット順に配列されている。

**white<sup>1</sup>** /waɪt/ *adj* (**whiter**; **whitest**) **1** having the very light colour of fresh snow or milk: *a white shirt* ♦ *white coffee* (= with milk) ♦ *white bread* **2** (used about a person) belonging to or connected with a race of people who have pale skin: *white middle-class families* **3** **white (with sth)** (used about a person) very pale because you are ill, afraid, etc: *to be white with shock/anger/fear* ♦ *She went white as a sheet when they told her the news.*  
**IDM** **black and white** ⇨ **black<sup>1</sup>**

**white<sup>2</sup>** /waɪt/ *noun* **1** [U] the very light colour of fresh snow or milk: *She was dressed in white.* **2** [C, usually pl] a member of a race of people with pale skin **3** [C,U] the part of an egg that surrounds the yolk (= the yellow part) and that becomes white when it is cooked: *Beat the whites of four eggs.* ⇨ picture at **egg** **4** [C] the white part of the eye: *The whites of her eyes were bloodshot.*  
**IDM** **in black and white** ⇨ **black<sup>2</sup>**

**whiteboard** /ˈwaɪtbɔːd/ a large board with a smooth white surface that teachers, etc. write on with special pens ⇨ look at **interactive whiteboard**

**white-collar** *adj* (used about work) done in an office not a factory; (used about people) who work in an office ⇨ look at **blue-collar**

**white elephant** *noun* [usually sing] something that you no longer need and that is not useful any more, although it cost a lot of money

**the White House** *noun* [sing] **1** the large house in Washington D.C. where the US president lives and works **2** used to refer to the US president and the other people in the government who work with him or her

## 発音とアクセント (強勢)

見出し語の直後に / / に挟まれ発音記号が与えられている。基本的には一般的なイギリス英語の発音を与えられているが、バリエーションがある場合はセミコロン (;) で区切られ併記されている。

注意：イギリス英語とアメリカ英語の発音には以下のような対応関係がある：

《英》/ɒ/ → 《米》/ɑ/ : **swot** /swɒt/ → /swɑt/

《英》/əʊ/ → 《米》/oʊ/ : **hopeful** /ˈhəʊpfl/ → /ˈhoʊpfl/

《米》では語末の /r/ は次に母音が続かない場合でも発音される： **teacher** /ˈtiːtʃə(r)/ → /ˈtiːtʃər/

**teacher** /ˈtiːtʃə(r)/ *noun* [C] a person whose job is to teach, especially in a school or college: *He's a teacher at a primary school.* ♦ *a chemistry/music teacher* ♦ *She's a head teacher* (= the teacher in charge of a school) who knows the name of every student. ⇨ note at **school** ⇨ look at **head<sup>1</sup>** (5) ⇨ picture on page P2

**often** /ˈɒfn; ˈɒftən/ *adv* **1** many times: *We often go swimming at the weekend.* ♦ *I'm sorry I didn't write very often.* ♦ *How often should you go to the dentist?*  
**SYN** frequently **2** in many cases: *Old houses are often damp.* **SYN** commonly  
**IDM** **every so often** sometimes; from time to time  
**more often than not** usually

第一強勢を受ける音節の前に / / が、第二強勢を受ける音節の前に /, / の記号が付されている。

communication は、第一強勢が第4音節に、第二強勢が第2音節にくる：

**communication** /kə,mjuːnɪˈkeɪʃn/

複合語には、アクセント記号のみが示されている (上記 white-collar, white elephant, the White House を参照)。

## 弱形と強形

冠詞、前置詞、接続詞、助動詞などの機能語には弱形 (weak form) と強形 (strong form) がある。通常使われる発音が弱形で、強形は、否定や対比など、特別な意味が加わる場合にのみ使われる。**can** に関しては、最初に示されている発音が弱形で、*strong form* と明示されている2番目の発音が強形である：

**can<sup>1</sup>** /kən; *strong form* kæn/

## 品詞

発音記号の後には、品詞が示されている。作文のみならず、読解にも役立ち、辞書の検索の手がかりにもなる重要な情報である。teacher の品詞は名詞だ。

## 定義

見出し語の意味を、Oxford 3000™ を使い平易な英語で説明している。基本的に、見出し語と入れ替え可能な句の形で定義がなされている。teacher の定義は「特に、学校や大学で教えることが仕事である人」と訳される。英語の定義を読むことにより関連語が学習でき、また、定義は会話でとっさに単語が思い浮かばないような場合の言い換え、説明のヒントも与えてくれる。

## 不規則動詞の活用と形容詞の比較級・最上級

不規則動詞の活用並びに形容詞の比較級・最上級は、辞書本体の項目内に明示されている。また、R2-4には不規則動詞の活用リストが載っている。

## 自動詞・他動詞

動詞には、目的語をとらない「自動詞」(intransitive)と、目的語をとる「他動詞」(transitive)の用法があり、それぞれ [I] [T] と表記されている。study の第一語義には [I, T] と示されているが、study はこの語義においては自動詞的にも他動詞的にも使われるという意味だ。用例 1 Leon has been studying hard for his exams. (レオンは試験のために熱心に勉強している) は自動詞用法を、用例 2 to study French at university (大学でフランス語を勉強する) は他動詞用法を示している。

**study** /stʌdi/ verb (studying; studies; pt, pp studied) **1** [I, T] study (sth/for sth) to spend time learning about sth: Leon has been studying hard for his exams. ♦ to study French at university **2** [T] to look at sth very carefully: to study a map

## 単語使用のパターン

単語の使用パターンが青字で示されている。study (sth/for sth) は、study がこの語義において次の3つのパターンで使われることを表している：

study (勉強する)

study something (…を勉強する)

study for something (…のために勉強する)

\*sth は something (もの)、sb は somebody (人) の略である。

## スピーチレベル

堅苦しい、くだけたなど、見出し語のスピーチレベルがラベルによって示されている。(also formal examination) は、フォーマルな状況、文書では examination が使われることを示す。

**exam** /ɪg'zæm/ (also formal examination) noun [C] a written, spoken or practical test of what you know or can do: an English exam ♦ the exam results ♦ to do/take/sit an exam ♦ to pass/fail an exam ♦ to revise for an exam ↻ note at pass, study

## 用例とコロケーション

用例は見出し語の使い方を表す句または文で、定義の後にイタリック体で示されている。『ワードパワー』では、コーパスに基づく典型的な用例が豊富に与えられている。用例は意味の理解を助け、また、書く、話す際のモデルにもなる。コロケーションとは単語と単語との結びつき、相性の良さを表す。用例中の特に使用頻

度の高いコロケーションは太字で示されている。受信、発信の両方に役立つので、できるだけ多く覚えよう。

### 定義内の難しい語句

定義は平易な英語で与えられているが、難しめの単語を使わざるを得ない場合もある。そのような場合は、使用者がわざわざ引き直さなくてもよいように、難しい語が太字で示され、最後に括弧に入れ語釈が示されている。

**extra-curricular** /ˌɛkstrə kəˈrɪkjələ(r)/ *adj* not part of the **curriculum** (= the normal course of studies in a school or college): The school offers many extra-curricular activities such as sport, music, drama, etc.

### The Oxford 3000™ (オックスフォード基本 3000 語)

学習者が習得する上で、また定義を書く上で最重要と考えられる基本語である。幅広い分野において高頻度で使われていること、ある意味を表すために代わる語がないこと、という2つの基準で選定されている。それゆえ、この3000語は、学習者が最初にマスターすべき利用価値の高い基本語だ。『ワードパワー』では、見出し語の前に鍵マーク🔑が付けられて、特に手厚く扱われている。語彙学習の参考にしよう。

参考：www.oup.com/elt/oxford3000

**🔑 language** /ˈlæŋɡwɪdʒ/ *noun*  
 > OF A COUNTRY **1 [C]** the system of communication in speech and writing that is used by people of a particular country: How many languages can you speak?  
 ♦ What is your first language (= your mother tongue)? ♦ They fell in love in spite of the **language barrier** (= having different first languages).  
 > COMMUNICATION **2 [U]** the system of sounds and writing that people use to express their thoughts, ideas and feelings: written/spoken language

### ショートカット (意味への近道)

意味が複数ある語を「多義語」と呼び、多義語のそれぞれの意味を「語義」と言う。すべての情報が外国語で与えられている英英辞典では、複数の語義の中から適切な語義を特定することには大きな困難を伴う。そこでこれを助けるための「小見出し」が各語義に付くようになった。『ワードパワー』では「ショートカット (short cut)」と呼ばれ、各語義の最初に、三角印▶に導かれ、青字の大文字で与えられている。ショートカットは同義語、コンテキストなどからなる。

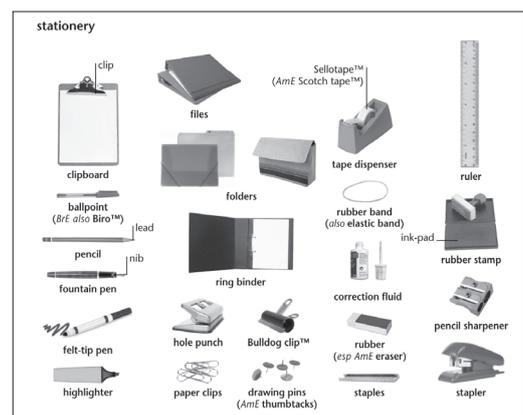
### 可算名詞・不可算名詞

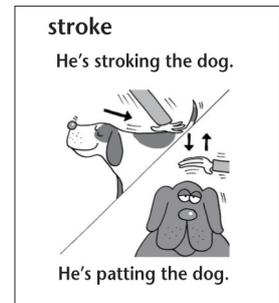
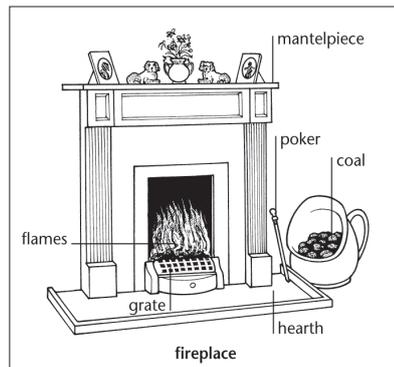
名詞には可算名詞(数えられる名詞)と不可算名詞(数えられない名詞)があり、それぞれが [C] (countable noun)、[U] (uncountable noun) と示されている。language は、語義1「個別の言語」では可算であるが、語義2「一般的な言語」では不可算であることがわかる。

### 他箇所参照

見出し語がアルファベット順に並んでいる辞書は検索には便利だが、その結果、関連情報が分散してしまうという欠点を持つ。これを緩和する措置として、🔗で他箇所にある関連情報を数多く参照させている。🔗 picture at **stationery** は「stationery にある挿絵を参照せよ」という意味である。そこにはボールペンを含む、さまざまな文房具の写真正出ている。『ワードパワー』は関連語を一緒に提示する目的以外にも、部分を示すため、また紛らわしい語を明示的に説明するために挿絵を積極的に活用している。語彙増強に大いに役立つ。

**ballpoint** /ˈbɔːlpɔɪnt/ (also **ballpoint pen**, BrE also **Biro**™) *noun* [C] a pen with a very small metal ball at the end that rolls ink onto paper 🔗 picture at **stationery**





語彙拡大のため、関連語を参照させるケースもある。**vowel** (母音) には「**consonant** (子音) を参照せよ」の指示がある。

**SYN** obligatory、**OPP** optional、**voluntary** はそれぞれ「同義語 **obligatory** を参照せよ」「反意語 **optional, voluntary** を参照せよ」の意味である。**SYN**は synonym の、**OPP**は opposite の略語。

### イディオムと句動詞

イディオム (idiom) と句動詞 (phrasal verb) は、語義の後にそれぞれ **IDM**、**PHRV** の見出しの下、アルファベット順に並べられている。イディオムは、通例、最初の名詞または動詞の項目に収録されている。

### 形容詞の限定用法・叙述用法

形容詞は名詞の前 (限定用法) や、be 動詞などの後 (叙述用法) に置かれる。『ワードパワー』では、これらの用法はそれぞれ [only before a noun]、[not before a noun] と明示的に表記されている。英和辞典などでは、**A**、**P** と表記される場合があるが、それぞれ attributive (限定的)、predicative (叙述的) の頭文字である。ほとんどの形容詞が両方の用法で用いられるが、(語義によっては) 片方のみでしか使われない場合がある。そのような場合は、この違いが意味を読み解く鍵になる。

### 選択制限

ある単語や語義が、何について使われるかという情報である。『ワードパワー』では、定義の先頭で括弧に入った (used about ...) の形で与えられている。**loud** の語義2「派手な」は「衣服や色に関して使われる」ということを示している。この情報は語義を選択する際に助けとなる。ショートカットがこの情報を示す場合もある。

**vowel** /'vaʊəl/ *noun* [C] a letter that represents a vowel sound. In English the vowels are a, e, i, o or u.  
👉 look at **consonant**

**compulsory** /kəm'pʌlsəri/ *adj* that must be done, by law, rules, etc: *Maths and English are compulsory subjects on this course.* ♦ *It is compulsory to wear a hard hat on the building site.* **SYN** obligatory  
**OPP** optional, voluntary

🔍 **kick**<sup>1</sup> /kɪk/ *verb* **1** [I,T] to hit or move sb/sth with your foot: *He kicked the ball wide of the net.* ♦ *The police kicked the door down.* **2** [I,T] to move your foot or feet: *You must kick harder if you want to swim faster.*  
**IDM** **kick the habit** to stop doing sth harmful that you have done for a long time  
**kick yourself** to be annoyed with yourself because you have done sth stupid, missed an opportunity, etc.  
**PHRV** **kick off** to start sth, especially a game of football  
**kick sb out (of sth)** (*informal*) to force sb to leave a place: *to be kicked out of university*

🔍 **present**<sup>1</sup> /'preznt/ *adj* **1** [only before a noun] existing or happening now: *We hope to overcome our present difficulties very soon.* **2** [not before a noun] being in a particular place: *There were 200 people present at the meeting.* **OPP** absent

🔍 **loud** /laʊd/ *adj* (**louder; loudest**) *adv* **1** making a lot of noise; not quiet: *Can you turn the TV down, it's too loud.* ♦ *Could you speak a bit louder—the people at the back can't hear.* **OPP** quiet, soft  
**2** (used about clothes or colours) too bright: *a loud shirt*

## 各種コラム

### OTHER WORDS FOR (類義語欄)

類義語間の意味、用法の違いを説明してくれる。我々は とかく (very) good を多用してしまいがちだが、**good** の類義語欄は、very good の代わりに、くだけた英語では brilliant、fantastic、great が使えること、excellent、wonderful はよりフォーマルな語であることを教えてくれる。また、食べ物には delicious や tasty を、芸術家などには talented を、業績などには outstanding をというように、名詞に対して適切に形容詞を使い分けるべきであることも教えてくれる。英語は繰り返しを避ける言語なので、類義語の知識は極めて有用である。

#### OTHER WORDS FOR

##### good

In informal English you can say **brilliant**, **fantastic** or **great** instead of 'very good'. **Excellent** and **wonderful** are more formal words: *an excellent example/opportunity*. We use particular words to describe particular things that are good: **delicious/tasty food** ♦ **a talented artist/player/writer** ♦ **an outstanding achievement/performance/piece of work**.

### TOPIC (話題欄)

英語を話す際に話題に上りそうなトピックに関し関連表現と用例を示してくれるコラムだ。これを読むことにより表現力も知識も身につく。例えば、**hard drive** の話題欄は以下の有用な表現を提示している：

#### TOPIC

##### Hard drive

Sometimes your computer may **crash** and you have to **reboot** it (= switch it off and on again). If your **hard drive fails**, you may lose all the data that you had **stored on** it, so it's a good idea to **back up your files** (= make copies of them), possibly on an **external hard drive** (= one that is not part of your computer).

your computer may crash パソコンがクラッシュするかもしれない

reboot your computer パソコンを再起動する

your hard drive fails ハードディスクが故障する

store data on your hard drive データをハードディスクに保存する

back up your files on an external hard drive

ファイルを外付けハードディスクにバックアップする

伝統的な話題からホットな話題、以下のような最新の話題までが幅広くカバーされている：

blog、chat、eBay™、e-book、instant messaging、iPod™、podcast、smartphone、social networking、touch screen

### その他のコラム

**CULTURE (文化欄)**：April Fool's Day、Bonfire Night など、英米の文化や制度に関する解説がなされている。

**EXAM TIP (試験対策欄)**：新しく加わったコラムで、試験に関連する語句の解説やアドバイスが載っている。

**WRITING TIP (ライティングの注意)**：理由の挙げ方、例の挙げ方など、英文を書く際のヒントが用例とともに示されている。

『ワードパワー』にはこれらコラムの他に、**GRAMMAR** (文法解説)、**HELP** (誤用を防ぐ情報)、**MORE** (付加的な情報) という見出しの下、ノート (注記) がふんだんに散りばめられている。これらは気の利いた追加、関連情報で大変参考になる。

## 5 略語・ラベル

### 辞書で使用されている略語

それぞれの意味を理解して辞書を有効に使う：

|                               |        |                             |       |
|-------------------------------|--------|-----------------------------|-------|
| <b>abbr</b> = abbreviation    | 省略形    | <b>pl</b> = plural          | 複数形   |
| <b>adj</b> = adjective        | 形容詞    | <b>pp</b> = past participle | 過去分詞形 |
| <b>adv</b> = adverb           | 副詞     | <b>prep</b> = preposition   | 前置詞   |
| <b>AmE</b> = American English | アメリカ英語 | <b>prn</b> = pronoun        | 代名詞   |
| <b>Brit</b> = British English | イギリス英語 | <b>pt</b> = past tense      | 過去形   |
| <b>C</b> = countable noun     | 可算名詞   | <b>sb</b> = somebody        | 人     |
| <b>conj</b> = conjunction     | 接続詞    | <b>sing</b> = singular      | 単数形   |
| <b>etc.</b> = and so on       | ～など    | <b>sth</b> = something      | もの    |
| <b>fem</b> = feminine form    | 女性形    | <b>T</b> = transitive verb  | 他動詞   |
| <b>I</b> = intransitive verb  | 自動詞    | <b>TM</b> = trademark       | 商標    |
| <b>interj</b> = interjection  | 感嘆詞    | <b>U</b> = uncountable noun | 不可算名詞 |
| <b>masc</b> = masculine form  | 男性形    |                             |       |

### 辞書で使用されているラベル

『ワードパワー』では主な文体・用法上の指示は次のようなラベルで示されている。以下にそれぞれの意味を解説するので、単語を引く際に参考にしよう：

**formal**：改まった場面や公式の場面で用いられる語（例：extinguish, nevertheless）

**informal**：友人同士など親しい間柄や、非公式の場面で用いられる語（例：mum, snooze）

**written**：本、書簡、報告書などの文書で用いられる書き言葉（例：circa, abode）

**spoken**：特にくだけた会話で用いられる語（例：I must say（全く、本当に）、You're joking（冗談でしょう））

**slang**：仲間同士やある特定の集団だけで用いられる非常にくだけた語（例：awesome, buff）

**technical**：特定の分野で用いられる専門用語（例：affidavit, diagnostic）

**figurative**：文字通りではなく比喩的に用いられる語（例：infectious laughter, a murky past）

**old-fashioned**：現在ではほとんど用いられなくなった古風な語（例：ado, slovenly）

## 6 『ワードパワー（第4版）』を使ってみよう

### 辞書検索の2つの方向性

それでは実際に、『ワードパワー（第4版）』を使ってみよう。しかしその前に、辞書検索について少し考えてみよう。以下のような状況では、どのような辞書を使うだろうか：

状況1 英字新聞を読んでいて、わからない単語が出てきた

状況2 英語でメールを書いている、英単語がわからない

状況1では英和辞典、状況2では和英辞典という答えが多いだろう。辞書の検索には2つの方向性がある：



FORM から始め MEANINGに到達する検索を「受信型」の検索という。状況1のように、英和辞典でわからない単語の意味を調べるような場合だ。「綴り」を手がかりに「意味」を検索する方法だ。反対に、MEANING→FORM の方向性の検索を「発信型」という。状況2のように、頭の中にある表したい意味(日本語)に相当する英語表現を和英辞典で調べるような場合だ。FORM から MEANING へと進む受信型の辞書は、検索の便宜上、見出し語がアルファベット順に並んでいる。『ワードパワー』もこれに属する。しかし、英和辞典が作文にも使えるように、「受信型」の辞書を「発信」目的のために使うことも可能だ。ただし、この検索には付加的な知識が要求される(調べるべき語句をあらかじめ知っていなければならないので、同義語などの知識が必要となる)。それでは『ワードパワー(第4版)』を受信(読解)、発信(作文)のために使ってみよう。

## 『ワードパワー(第4版)』を使って読む

### 辞書検索のメカニズム

皆さんは常日頃どのような手順で辞書を検索しているか考えたことはあるだろうか？ 普段なにげなく引いているかもしれないが、辞書検索は高度で、複雑な知的活動なのだ。辞書学の重鎮、R. R. K. Hartmann 教授は、辞書検索プロセスを以下の7段階に分けている：

### 辞書検索プロセスの7段階

- ① 問題の認識
- ② 問題となる語の特定
- ③ 辞書の選択
- ④ 見出し語の選択
- ⑤ 語義の選択
- ⑥ 有用な情報の抽出
- ⑦ 情報の活用

(Hartmann, R. R. K. 2001. *Teaching and Researching Lexicography*. Pearson Education. pp. 89-92)

辞書がうまく引けたときは、意識的に、または無意識のうちにもこれらすべての段階をクリアしているはずだ。反対に、どこか1箇所でもつまずいてしまうと、辞書検索は成功しない。そのような場合は、検索を微修正するか、振り出しに戻るか、別の問題解決の方法(別の辞書に当たるなど)を考えなければならない。

それでは、実際に『ワードパワー(第4版)』を使い、7つのステップを個別に見てみよう。練習問題にもトライしてみよう。

#### ① 問題の認識

最初のステップは辞書で確認すべき語句がある(またはない)と認識することだ。これは個人の語彙力にもよるので、パーソナルな問題だが、極めて重要なステップだ。つまり、ここで検索は不要と判断すると辞書は使われない。そしてこの判断が間違っていると、ある語句を誤って解釈したまま読み進めることになり、読解に支障を来しうからだ。それでは、辞書を引き解釈をする前提で、次のマーケティングに関する記事の最初の段落を見てみよう。

## 練習 1

下の文章の中に辞書で調べたい語句はあるか。

Once brands knew their place. Cosmopolitan was a magazine, Coca-Cola was a drink and Lynx was that naff after-shave that came in gift-packs at Christmas time.

(Cozens, Clair. "Brand New World." *The Guardian*. 11 March 2002.  
http://www.guardian.co.uk/media/2002/mar/11/mondaymediasection6)

**解説**：Cosmopolitan、Lynx といった固有名詞は『ワードパワー』の対象外なので、ここでは考慮しないことにする。多くの人が naff を引きたいと思ったであろう。これはイギリス英語のくだけた形容詞で、「ダサイ」に当たる。

しかし、knew their place はどうだろうか？ 残念ながら中級者向けの『ワードパワー（第4版）』の範囲外だが、「身の程を知っている」という意味の成句だ。成句であると認識できること、あるいは、何か引っかかる（ので辞書を引いてみよう）と感じられることがとても重要だ。解釈をしてみて意味的にしっくりこない場合は、成句が含まれているのではないかと疑い、億劫がらずに辞書で確認してみよう。came はどうだろうか？ 「来る」では不十分だ。実は、「…の形式で売られる」と言うような意味で、『ワードパワー（第4版）』では **come** の語義 4 に右のように記述されている。すでに知っていればよいが、読み飛ばしていないだろうか？

**naff** /næf/ adj (BrE informal) lacking style, taste or quality; There was a naff band playing.

(イギリス英語 くだけた)かっこよさ、趣味のよさ、品のよさに欠ける

**come** /kʌm/ verb [I] (pt **came** /keɪm/; pp **come**)

**1** to move to or towards the person who is speaking or the place that sb is talking about: *Come here, please.* ♦ *Come and see what I've found.* ♦ *I hope you can come to my party.* ♦ *They're coming to stay for a week.* ♦ *The children came running into the room.* **2 come (to ...)** to arrive somewhere or reach a particular place or time: *What time are you coming home?* ♦ *Has the newspaper come yet?* ♦ *After a few hours in the jungle, we came to a river.* ♦ *Her hair comes down to her waist.* ♦ *The water in the pool came up to our knees.* ♦ *The time has come to say goodbye.* **3** to be in a particular position in a series: *March comes after February.* ♦ *Charlie came second in the exam.* ♦ *I can't wait to find out what comes next in the story.* **4 come in sth to be available:** *This blouse comes in a choice of four colours.* ♦ *Do these trousers come in a larger size?*

手に入る このブラウスは4色で販売されています。  
このズボンをもっと大きいサイズはありますか。

繰り返しになるが、辞書検索の初めの一步である「問題の認識」は極めて重要だ。ここで問題が正しく認識されないと辞書は使われない。授業の予習を怠らず、英文に多く触れ、辞書を引く感覚を磨こう。

## ② 問題となる語の特定

これは、辞書のどの見出し語を見れば、問題を解決するための情報が載っているか（載っていそうか）を判断することだ。名詞であれば単数形、動詞、形容詞であれば原形を引くのが常道だ。また、イディオムは、通例最初の重要語の項目に収録されている。

## ③ 辞書の選択

ここでは『ワードパワー（第4版）』を使うが、①で見たような固有名詞、動植物名などは大型の英和辞典で引くというように、実際は状況に応じて辞書を使い分ける必要がある。どのような辞書があり、どのような用途で使えるか、そしてどの辞書をどのように使えば最も効率的かの認識を高めていくことが大切だ。

## ④ 見出し語の選択

見出し語は基本的にアルファベット順に並んでいる。その中から検索語を見つけなければならない。

## 練習2

下線部を調べるには、どの見出し語を見ればよいか。

This matters hugely, because liberalisation of trade in agricultural products is central to the Doha agenda.

("Dangerous activities." *The Economist*. 9 May 2002.  
http://www.economist.com/node/1120348)

**ヒント** 品詞を考えよう。

解答：matter<sup>2</sup> (動詞) の項目

問題文の訳：このことは大変重要だ、というのは、農作物の貿易の自由化はドーハ議定書の中核を成すからだ。

解説：辞書の項目は品詞別に配列されるため、複数の品詞がある単語を検索する際は、最初に品詞を特定しなければならない。これには文法の力が必要だ。matter は名詞または動詞として使われ、matters は名詞の複数形か、動詞の三人称単数現在ということになる。しかしこの場合、文法的にも意味的にも、動詞であると断定できる。よって、matter<sup>2</sup> (動詞) の項目が正しい選択となる。matter は自動詞として使われ、「重要である」という意味だ。

**matter<sup>1</sup>** /'mætə(r)/ *noun* **1** [C] a subject or situation that you must think about and give your attention to: *It's a personal matter and I don't want to discuss it with you.* ♦ *Finding a job will be no easy matter.* ♦ *to simplify/complicate matters* **2** [sing] **the matter (with sb/sth)** the reason sb/sth has a problem or is not good: *She looks sad. What's the matter with her?* ♦ *There seems to be something the matter with the car.* ♦ *Eat that food! There's nothing the matter with it.* **3** [U] all physical substances; a substance of a particular kind: *reading matter* ♦ *waste matter* ♦ *organic matter*

**matter<sup>2</sup>** /'mætə(r)/ *verb* [I] [not used in the continuous tenses] **matter (to sb)** to be important: *It doesn't really matter how much it costs.* ♦ *Nobody's hurt, and that's all that matters.* ♦ *Some things matter more than others.* ♦ *It doesn't matter to me what he does in his free time.*

## ⑤ 語義の選択

適切な見出し語までたどり着いたら、複数の意味の中から、自分の読んでいる文脈に当てはまる語義を特定しなければならない。わからない単語の意味を調べる受信型 (FORM → MEANING) の検索においては、名詞の可算・不可算 ([C], [U])、形容詞の限定用法・叙述用法、自動詞か他動詞か ([I], [T])、パターン (文法、コロケーション) などの「形」を手がかりに、語義を絞り込み検索するのが鉄則だ。前の第3版から導入された、「ショートカット」(→8ページ) も役立つだろう。状況に応じて、これらを駆使して適切な語義を見つけよう。

## 練習3

下線部の意味は、それぞれの単語の語義番号何番に当たるか。

- (1) Those businesses were not affected by the recession.
- (2) That institute shows no interest whatever in animal welfare.
- (3) Would you like to come over to my place for a cup of coffee?

**ヒント**

- (1) 名詞の可算、不可算に注目しよう。
- (2) よく似た例文を探してみよう。
- (3) 「ショートカット」をチェックしてみよう。

(1) 解答：語義4

問題文の訳：それらの企業は不景気に影響されなかった。

**解説：**businesses と複数形で用いられているため、問題文中の business は可算だ。[C]、[U] に注目し、[U] と表示されている語義 1、2、3、5、6 を候補から外す。7 の [sing] は singular の略で、単数形で使われるという意味だ。可算ではあるが、問題文中では複数形で使われているわけだから、やはり除外する。残った 4 を見るとショートカットに「会社 (COMPANY)」とあり、定義に「商品を製造したり、売ったり、サービスを提供する会社、店、工場など」とある。意味的にもこの語義が該当する。

## (2) 解答：語義 4

**問題文の訳：**あの研究所は動物愛護に全く関心を示さない。

**解説：**問題文と似た用例はないかチェックする。問題文で whatever は “no interest whatever” という組み合わせの中で使われている。「no + 名詞 + whatever」というパターンはないか、用例のみを目で追っていく。この段階では定義は見ない。イタリック体で与えられている用例のみに集中する。すると、語義 4 に、該当するパターンがあることに気づく：I've no reason whatever to doubt him. (彼を疑う理由は全くない)。定義を確認すると、「全く…ない」の意味の at all が挙げられており、この表現同様、否定の強調に、使われる副詞であることがわかる。また、whatsoever にも同様の用法があることがわかる。

## (3) 解答：語義 8

**問題文の訳：**コーヒーを飲み、私の家へ来ませんか。

**解説：**語義が 10 個もあり、他に有力な検索上の手がかりがないので、問題文の文脈と照らし合わせながら、ショートカットを見ていく。1「地点／場所」、2・3「町／建物」、4「席」、5「役割」、6「大学／チームで」、7「適切な場所」、8「家」。語義 8 で問題文のコンテキストに合うショートカットに出会う。定義を見るとやはり「誰かの家」と出ており、この語義が該当すると判断。place は「家」という意味では単数形 ([sing]) で使われ、またこれは口語表現 (spoken) であることもわかる。語義は大体頻度順に並んでいる。探している語義が中心的な意味でない場合は、ショートカットを下から見ていくのも手だ。

### business /ˈbɪznəs/ noun

- ▶ **TRADE 1** [U] buying and selling as a way of earning money: *She's planning to set up in business as a hairdresser.* ♦ *I'm going to go into business with my brother.* ♦ *They are very easy to do business with.*
- ▶ **WORK 2** [U] the work that you do as your job: *The manager will be away on business next week.* ♦ *a business trip*
- ▶ **CUSTOMERS 3** [U] the number of customers that a person or company has had: *Business has been good for the time of year.*
- ▶ **COMPANY 4** [C] a firm, a shop, a factory, etc. which produces or sells goods or provides a service: *She aims to start a business of her own.* ♦ *Small businesses are finding it hard to survive at the moment.*
- ▶ **RESPONSIBILITY 5** [U] something that concerns a particular person: *The friends I choose are my business, not yours.* ♦ *Our business is to collect the information, not to comment on it.* ♦ *'How much did it cost?' 'It's none of your business!'* (= I don't want to tell you. It's private.)
- ▶ **IMPORTANT MATTERS 6** [U] important matters that need to be dealt with or discussed: *First we have some unfinished business from the last meeting to deal with.*
- ▶ **EVENT 7** [sing] a situation or an event, especially one that is strange or unpleasant: *The divorce was an awful business.* ♦ *I found the whole business very depressing.*

### whatever /wɒt'evə(r)/ determiner, pron, adv

- 1** any or every; anything or everything: *You can say whatever you like.* ♦ *He took whatever help he could get.*
- 2** used to say that it does not matter what happens or what sb does, because the result will be the same: *I still love you, whatever you may think.* ♦ *Whatever she says, she doesn't really mean it.*
- 3** (used for expressing surprise or worry) what: *Whatever could have happened to them?*
- 4** (also **whatsoever** /wɒtsəʊ'evə(r)/) at all: *I've no reason whatever to doubt him.* ♦ *'Any questions?' 'None whatsoever.'*

### place<sup>1</sup> /pleɪs/ noun [C]

- ▶ **POSITION/AREA 1** [C] a particular position or area: *Show me the exact place where it happened.* ♦ *This would be a good place to sit down and have a rest.* ♦ *The wall was damaged in several places.*
- ▶ **TOWN/BUILDING 2** [C] a particular village, town, country, etc: *Which places did you go to in Italy?* ♦ *Vienna is a very beautiful place.*
- ▶ **3** [C] a building or area that is used for a particular purpose: *The square is a popular meeting place for young people.* ♦ *The town is full of inexpensive eating places.*
- ▶ **SEAT 4** [C] a seat or position that can be used by sb/sth: *They went into the classroom and sat down in their places.* ♦ *Go on ahead and save me a place in the queue.*
- ▶ **ROLE 5** [sing] your position in society; your role: *I feel it is not my place to criticize my boss.*
- ▶ **IN COLLEGE/TEAM 6** [C] an opportunity to study at a college, play for a team, etc: *Abina has got a place to study law at Oxford University.* ♦ *Laila is now sure of a place on the team.*
- ▶ **CORRECT POSITION 7** [C] the usual or correct position or occasion for sth: *The room was tidy. Everything had been put away in its place.* ♦ *A funeral is not the place to discuss business.*
- ▶ **SB'S HOME 8** [sing] (spoken) sb's home: *Her parents have got a place on the coast.*
- ▶ **IN COMPETITION 9** [C, usually sing] the position that you have at the end of a race, competition, etc: *Cara finished in second place.*
- ▶ **IN NUMBERS 10** [C] the position of a number after the decimal point (= a small round mark used to separate the parts of a number): *Your answer should be correct to three decimal places.*

## ⑥ 有用な情報の抽出

語義が特定できたら、定義、用例を解釈し、問題解決に役立つ情報を抽出する必要がある。用例は見出し語がどのように使われているかを示す実例であるから、普通の英語である。他方、定義は、限られたスペースの中に有用な情報をできるだけ盛り込む配慮から、独特な文法や言い回しが使われてきた。見出し語と代替可能な句の形で定義するという原則（例えば、名詞は名詞的に（名詞句で）定義すること）も定義の解釈を難しくした一因である。学習英英辞典では、基本語を使い、わかりやすく定義する配慮がなされている。しかし外国人学習者にとっては、この英語の定義の解釈がネックになり得る。ここをしっかりとクリアすることが肝心である。

## ● 定義の基本

定義を正しく解釈するためには、その基本的なルールを知っておく必要がある。名詞は「種（類）を表す語句＋特徴」のパターンで定義されるのが基本だ。surgeon、chair の定義は以下の通りだが、表で示したように分析できる。

**surgeon** /ˈsɜːdʒən/ noun [C] a doctor who performs medical operations: a brain surgeon

**chair**<sup>1</sup> /tʃeə(r)/ noun **1** [C] a piece of furniture for one person to sit on, with a seat, a back and four legs: a kitchen chair ♦ an armchair

| 見出し語 (名詞)     | 種 (類) を表す語句               | 特徴   |
|---------------|---------------------------|--|
| surgeon (外科医) | a doctor (医者)             | who performs medical operations (医療的な手術を施す)  |
| chair (いす)    | a piece of furniture (家具) | for one person to sit on, with a seat, a back and four legs (一人の人が座るため、座部、背もたれ、4本の脚のついた) |

これまで見た通り、定義は、通例、見出し語と置換可能な句の形でなされる。動詞の定義は to 不定詞で始まる。

## ● 定義によく使われる語句

便宜上、定義に多用される語句がある。それらに習熟しておくことは、定義を正確かつ迅速に解釈する上で得策である。いくつか代表的なものを見ておこう。

- ・ **quality** : 「性質、特質」の意。抽象名詞の定義によく使われる。
- ・ **state** : 「状態」
- ・ **process** : 「過程、プロセス」
- ・ **particular** : 「特別な」という意味ではなく、「辞書で検索する単語が出てくる文脈に書かれている様」といった意味だ。例えば、『ワードパワー（第4版）』で Consider it done. の consider の意味を引くと、語義 2 に右のような定義が出ている。定義中の in a particular way は何かというと、Consider it done. の done (= finished) を指している。つまり、Consider it done. は、何かを頼まれたときに「任せておけ／お安い御用だ」の意味で言うセリフなのだが、辞書の定義に合わせて考えると「それは done (= 済んだもの) とみなせ」ということなのだ。

**manufacture** /ˌmænjʊˈfæktʃə(r)/ verb [T] to make sth in large quantities using machines: a local factory that manufactures furniture **SYN** produce  
▶ **manufacture** noun [U]: The manufacture of chemical weapons should be illegal.

製造する…動詞 [他動詞] 機械を使い、物を大量に作る

**clarity** /ˈklærəti/ noun [U] the quality of being clear and easy to understand: clarity of expression  
▶ look at clarification

明確でわかりやすいこと

**adaptation** /ˌædæpˈteɪʃn/ noun **1** [C] a play or film that is based on a novel, etc: a screen adaptation of Jane Austen's 'Pride and Prejudice' **2** [U] the state or process of changing to suit a new situation

新しい環境に合うように変化している状態、またはその過程

**consider** /kənˈsɪdə(r)/ verb [T] **1** consider sb/sth (for/as sth); consider doing sth to think about sth carefully, often before making a decision: They are considering him for the part of Romeo. ♦ She had never considered nursing as a career. ♦ We're considering going to Spain for our holidays. **2** consider sb/sth (as/to be) sth; consider that ... to think about sb/sth in a particular way: He considered the risk (to be) too great. ♦ He considered that the risk was too great. ♦ Jane considers herself an expert on the subject. **3** to remember or pay attention to sth, especially sb's feelings: I can't just move abroad. I have to consider my family.

誰か／何かに関し…のように考える

- ・ **to cause ~ to do ...** : 「～に…させる」の意で、他動詞用法を表記するお決まりのパターン。英英辞典では、動詞の語義に自動詞用法と他動詞用法がある場合はまとめて記述される。右の **pop** の例のように、最初に自動詞用法を詳細に定義し、他動詞用法は、後で代名詞を使い簡略に示すことが多い。定義の他動詞用法の部分 **to cause sth to do this** は **to cause sth to make a short sudden sound like a small explosion** ということだ。そして用例1が自動詞用法を、用例2が他動詞用法を例示している。

右の **escalate** の語義1の定義のように、重複を避けるため、他動詞用法を示す **to cause sth** が括弧にくくられて提示される場合もある。

- ・ **especially** : 「特に」の意。定義では **especially** の後に重要情報がくることがよくあるので、注意しよう。

できるだけ多くの情報を盛り込もうとした結果、時に定義が複雑な構造を取る場合がある。関係節も多用される。最後に定義を解釈する問題をやってみよう。下の **medal** の定義を、内部の修飾関係を含め正しく理解できるだろうか。

#### 練習4

次の定義を日本語に訳してみよう。

**medal** /'medl/ *noun* [C] a small flat piece of metal, usually with a design and words on it, which is given to sb who has shown courage or as a prize in a sport: to win a gold/silver/bronze medal in the Olympics

**解答** : 勇気を示した人に対して、またはスポーツにおける賞として贈られる、普通、模様と文字が刻印された小さく、平たい金属の一片

**解説** : with は「…を伴った」という意味の前置詞で、a small flat piece of metal にかかる。it は a small flat piece of metal を指す。which の先行詞は a small flat piece of metal で、who の先行詞は sb (= somebody)。to sb who has shown courage と as a prize in a sport が並列で、given に続く。

| 種(類)を表す語句                   | 特徴  |
|-----------------------------|---|
| a small flat piece of metal | usually with a design and words on it<br>which is given to sb who has shown courage or<br>as a prize in a sport |

#### ⑦ 情報の活用

いよいよ辞書検索の最後のステップだ。ここでは、辞書から得られた情報を所期の目的のために活用する。読解であれば、得られた情報を検索語がある文脈に当てはめ、その解釈に役立てる。ここでミスをしてしまうと、これまでの苦労が水の泡になってしまう。詰めが甘くならないようにしよう。

⑥の「有用な情報の抽出」と⑦の「情報の活用」は、しばしば不可分の、行きつ戻りつのプロセスである。この2つの段階にまたがる問題をやってみよう。

小さな爆発のような、突然の短い音を出す；何かにこれをさせる

**pop** /pɒp/ *verb* (**popping**; **popped**) **1** [I,T] **to make a short sudden sound like a small explosion; to cause sth to do this:** The balloon popped. ♦ He popped the balloon.

その風船は破裂した。彼はその風船を破裂させた。

**escalate** /'eskəleɪt/ *verb* [I,T] **1 escalate (sth) (into sth) (to cause sth) to become stronger or more serious:** The demonstrations are escalating into violent protest in all the major cities. ♦ The terrorist attacks escalated tension in the capital.

(何かを) より強くまたは重大になる(させる)

**graphic** /'græfɪk/ *adj* **1** [only before a noun] connected with drawings, diagrams, etc: graphic design ♦ a graphic artist **2** (used about descriptions) clear and giving a lot of detail, especially about sth unpleasant: She described the accident in graphic detail. ▶ **graphically** /-kli/ *adv*

(描写に関し使われ) 明瞭で事細かに詳細を示す、特に不快なものに関して

## 練習5

辞書を引き、下線部の意味を解釈しよう。

The nature of what people are doing will evolve.(Deeble, Sandra. "Time to speak up if you're a real operator." *The Guardian*. 13 April 2002.  
http://www.guardian.co.uk/money/2002/apr/13/workandcareers.jobsandmoney)**ヒント** 定義のどの部分が問題文中の evolve の言い換えになるか。

解答：進化する

問題文の訳：人が行うことの性質は進化するものだ。

解説：問題文の evolve は自動詞だ。語義2は動植物の進化の意味なので却下する。語義1が該当するが、自動詞的にも他動詞的にも使われるため、定義の自動詞の説明の部分を抽出する。以下がその答えだ：to develop gradually, from a simple to a more advanced form. この項目では、他動詞用法を説明するために使役の make (make sth develop ...) が使われている。用例は問題文と同じ自動詞用法を例示している。

問題文中の evolve の意味を解釈するのに即役に立つのは上記の情報だが、この語の深い理解と定着のためには言うまでもなく他の情報も有用だ。全体に目を通し、見えそうなコーテーションなどはどんどん覚えよう。

単純な形式からより進歩した形式へと徐々に発達する、または何かを発達させる：彼の画風は過去20年において徐々に進化した。

**evolve** /iˈvɒlv/ verb **1** [I,T] (formal) to develop or to make sth develop gradually, from a simple to a more advanced form: *His style of painting has evolved gradually over the past 20 years.* **2** [I] **evolve** (from sth) (used about plants, animals, etc.) to develop over many thousands of years from simple forms to more advanced ones

最後に、定義を分析し用例との対応関係を考えてみよう。これは、⑦の「情報の活用」のよい練習になる。

## 練習6

(1) 次の定義は何パターンの情報を示しているか、書いてみよう。

(2) 用例は、どのパターンを例示しているか。

**bundle**<sup>2</sup> /ˈbʌndl/ verb [T] to put or push sb or sth quickly and in a rough way in a particular direction:  
*He was arrested and bundled into a police car.*

**ヒント** or はオプションを示す。

解答・解説：(1) 4通り。put と push、sb と sth がオプションなので、以下の4通りのパターンを示している：

to put sb quickly and in a rough way in a particular direction

to put sth quickly and in a rough way in a particular direction

to push sb quickly and in a rough way in a particular direction

to push sth quickly and in a rough way in a particular direction

(2) 人が目的語である、上記のパターンの1つ目と3つ目。

誰かまたは何かをすばやく、乱暴にある特定の方向に入れる、または押しやる(定義の in a particular direction は用例の into a police car を指す)

**bundle**<sup>2</sup> /ˈbʌndl/ verb [T] to put or push sb or sth quickly and in a rough way in a particular direction:  
*He was arrested and bundled into a police car.*

彼は逮捕されパトカーに押し込まれた。

## 『ワードパワー (第4版)』を使って書く

上で述べたように、この辞書は基本的には受信型の辞書だ。しかし、元来学習英英辞典には、文法、語法といった発信に有用な情報も豊富に盛り込まれているため、英語を書き、話すためにも使える。さて、発信のための辞書使用を具体的に扱うが、発信のためには「コロケーション」という概念が大変有用である。これは、「語と語の相性」という意味だ。日本語では「濃いコーヒー」「薄いコーヒー」と言うが、英語では strong coffee、weak coffee と言い、<sup>x</sup>thick coffee、<sup>x</sup>thin coffee とは言わない。

## 練習7

「盲腸を取る」の「取る」に当たる動詞を調べよう。

( ) one's appendix

## コロケーション検索——2つのアプローチ

appendix という名詞と一緒に使われる動詞のコロケーションの問題だ。一般的にコロケーション検索には2つのアプローチが可能だが、まずはそれを見てみよう：

- 1 ↓ (類義語など) 代入可能表現から探す
- 2 → (文法・コロケーションを基に) 一緒に使われる語から探す

1の縦方向の矢印は入れ替え可能な関係に依る検索を示す。和英辞典で「取る」「切除する」などを引き、英語の相当語句を調べる方法もこれだ。Longman Language Activator や Oxford Learner's Thesaurus のような外国人のための英英の類義語辞典を使うことも可能だ。2の横方向の矢印は、文法関係やコロケーション関係(横のつながり)に依る検索を示す。つまり、一緒に使われる語を探すわけだ。『新編英和活用大辞典』(研究社)や Oxford Collocations Dictionary for Students of English など、ずばりコロケーション辞典で **appendix** を引いてもいいし、英和辞典や英英辞典で用例をチェックし、appendix がどのような動詞と一緒に使われるか確認することも可能だ。

さてこの場合、『ワードパワー』はどのように使えるだろうか？残念ながら、1のアプローチに関してはかなり使用が限られる。見出し語がアルファベット順に並び、主に読解のための中級者向け英英辞典なので、類義語欄はあるものの、その数はかなり限定的だ。自分の語彙力に頼り、cut、take out …と個別に候補を当たり、確認していくしかない。ただし、その過程で、有用な情報に遭遇する可能性はある。

2のアプローチどうか？こちらではいろいろな検索が可能だ。3つの方法が考えられる：

- (1) **appendix** の項目を見て、どのような動詞と一緒に使われるか用例をチェックする
- (2) **appendix** の定義を見て、有用なコロケーションの情報がないか確認する
- (3) 「盲腸を取る」の「取る」に当たる情報が得られそうな他の項目を調べてみる

順番に試してみよう。まずは(1)の方法だが、appendix は専門語のため、残念ながら用例は与えられていない。しかし、すかさず(2)の方法を試みる。あいにく有用な情報はなく、またも期待が裏切られた。

失意のうちに視線を少し上に移すと、**appendicitis** と、関連のありそうな項目があるではないか！(これが紙辞書の長所！)定義を読んでもみると、この語は「虫垂炎」の意味で、「盲腸を取る」の「取る」に当たる動詞として remove が使えそうであることも教えてくれる。

盲腸が猛烈に痛み、普通は切除されなければならない病気

**appendicitis** /əˌpendɪˈsaɪtɪs/ noun [U] an illness in which your appendix becomes extremely painful and usually has to be removed

**appendix** /əˈpendɪks/ noun [C] **1** (pl **appendixes**) a small organ inside your body near your stomach. In humans, the appendix has no real function. **2** (pl **appendices** /-dɪsɪz/) a section at the end of a book, etc. that gives extra information

体内の胃に近いところにある、小さな臓器。人体では、盲腸は実質的には機能していない。

「remove が使えそう」と言ったのは、まだ100%の確信は得られていないからだ。ほぼ大丈夫だとは思っているのだが、この段階では、「remove + appendix」のコロケーションが、定義という説明のための言語の中に出ていたにすぎない。厳密には、実際の使用の例証である用例で確認できて初めてこのコロケーションが実際に使えるお墨付きが与えられることになる。そこで **remove** を引いてみよう。すると最後に He had an operation to remove the tumour. (彼は腫瘍を切除する手術を受けた) という用例があり、remove が「(体の組織や臓器を) 取る」という意味で使われると確信できる。

最後に注記がついている。「フォーマルさの低い表現に **take off, out** などがある」と。このようなありがたい注記も見逃してはならない。調べてみると、**take sth out** の語義 1 に右のような記述があり、これも remove 同様「取る」の意味で使えることがわかる。

(3) もやってみよう。「盲腸を取る」の「取る」に当たる情報が得られそうな項目とは何か？ 自由な発想で考えてみよう。「盲腸の他に‘取る’ものといえば…?」「盲腸を取る…その状況は…?」そうだ、「手術」だ！ **operation** を調べてみよう。すると、最後に He had an operation to remove his appendix. (彼は盲腸の切除の手術を受けた) という、求めていたコロケーションをズバリ与えてくれる用例が見つかる。

実は、付属の CD-ROM を使うと、これらの検索を瞬時に漏れなくできてしまう。「例文検索」は全辞書の用例から appendix を含む3つの例文を取り出してくれる。その中の一つから、「have + appendix + out」というコロケーションも可能であることがわかる。

同様に、「定義検索」も可能である。便利な世の中になったものだが、語学的な感性が磨かれ勉強になるアナログ的なアプローチにも価値がある。デジタルのスピーディーで網羅的な検索とうまく使い分けてほしい。

**解答** : remove one's appendix, take one's appendix out, have one's appendix out

**remove** /rɪ'mu:v/ verb [T] (formal) **1** remove sb/sth (from sth) to take sb/sth off or away: Remove the saucepan from the heat. ♦ This washing powder will remove most stains. ♦ to remove doubts/fears/problems ♦ I would like you to remove my name from your mailing list. ♦ He had an operation to remove the tumour. → Less formal expressions are **take off, out, etc.**

体内から何かを取り除く

**take sth out** **1** to remove sth from inside a person's body: He's having two teeth taken out. **2** to obtain a service: to take out a mortgage/loan

彼は歯を2本抜歯することになっている。

**operation** /ɒpə'reɪʃn/ noun  
 > **MEDICAL** **1** [C] (also informal **op**) the process of cutting open a patient's body in order to deal with a part inside: He had an operation to remove his appendix. → note at hospital

**have sth out** to have part of your body removed: to have a tooth/your appendix out

## 7 4つのアドバイス

あとは『ワードパワー（第4版）』を使い、何でもどんどん気軽に引いてみよう。特に、すでに知っている語句を引き直して見ると、「willing ≒喜んで…する」のような思わぬ発見があるかもしれない。1日の最初の英語辞書検索は『ワードパワー』でと決める、まずは挿絵と付随する用例に目を通すことから始め、注記やコラムに挑戦していくという方法もいいだろう。SYN（同義語）、OPP（反意語）や↷（他箇所参照）を利用し、どんどん世界を広げていってほしい。その際にぜひ実践してもらいたいことがある。それは、『ワードパワー』を読んでいてわからない単語が出てきたら、1回は『ワードパワー』で確認してみるということだ。付属のCD-ROMは、わからない単語をダブルクリックすればその項目を表示してくれる。苦労の上塗りのような作業だが、これを地道に続けることにより、あなたの英語のネットワークが確実に広がり、そしてつながってくる。

もちろん、英文読解のためにも『ワードパワー』を積極的に使ってもらいたい。その際うまくいかなくても、簡単に諦めないでほしい。『ワードパワー』は中級者向けの英英辞典であるから、収録語彙は限られている。ある語句を引いて載っていない場合もあるだろう。一般的に辞書検索がうまくいかない場合、原因は2つある。辞書が悪い場合と、引き方が悪い場合だ。辞書の作成に携わっている筆者が言うのも何だが、後者のケースは結構見受けられる。引き方を少し工夫することによって有用な情報を引き出せることがかなりあるのだ。学習英英辞典は情報の宝庫だ。一度トライして検索がうまくいかない場合でも、検索語を変えてみるなど、柔軟な発想で再度トライし、『ワードパワー』を最大限活用してほしい。

英語の感覚を磨き、発信力をつけるためには、身近なものの定義を英語で書き、『ワードパワー』の語の定義に照らし合わせて添削してみてもどうだろう？具体的な物を表す名詞から始めてみるのがよい。具体名詞は「種（類）を表す語句＋特徴」というパターンで定義されることが多いと言った。定義を全部書くのが難しければ、ある名詞の定義に使われている「種（類）を表す語句」を当てることから始めてもよい。Bridge（橋）のそれは何だろうか？

## 8 おわりに

最初に使う英英辞典として『ワードパワー』はうってつけの1冊だ。読解のため、作文のため、語彙増強のため、そして楽しみのために定期的に使い、頻度を上げていってほしい。小さな1冊だが、上手に聞けばあなたの質問に親切に、適確に答えてくれるはずだ。辞書を引くということは学びのチャンスだ。学習英英辞典は質の高い情報を与えてくれる。そのチャンスを大いに活かしてほしい。ぎこちなく感じられた英英辞典を引く作業が、わくわくするような体験へと変わるとき、あなたの英語力は飛躍的にアップしているだろう。

### 参考文献

磐崎弘貞. 1990. 『こんなこともできる英英辞典活用マニュアル』大修館書店.